



2月園だより

令和5年2月1日

目黒区立目黒本町保育園園長

庭のジャングルジムの後ろに通り抜けられる空間があります。その使い方を職員と話合い、近くに水道もあり危険だから鬼ごっこ等で走りぬけるのは止めにしようと考えていました。あるクラスの日誌に「鬼ごっこをしているとジャングルジムの後ろを止めてもどうしても走りぬけてしまう」という記録がありました。注意することが多くなってしまうなら、注意しなくてすむようにその環境を変える設定をするべきだと考え、庭の様子を見に行きました。そこでは1歳児クラスの子どもたちが1本の縄を数人で握ってとことこと電車ごっこのようにジャングルジムの周りを歩いていました。楽しそうに何度も何度も速度を合わせ歩いている様子に、ジャングルジムの後ろの空間に走り抜けられないようフープやタイヤを組み合わせた設定を常設しようと考えていた思いは吹き飛びました。子どもたちが自分たちで考えて遊ぶ、工夫して遊ぶことが最も大事にしたいことだからです。それから、職員がその場所で子どもたちが遊ぶ姿を思い描いて、空間の上に屋根のように白い布をかけました。布一つがあることで空間の使い方のイメージが膨らみ、そこでのお家ごっこが始まっています。バスマット等を組み合わせて空間が出来上がると、庭に出ている他クラスの子どもが中をそっと覗いています。

魅力的な遊びに触れて、次は自分でも作ってみようという遊びのきっかけとなりつながっていきます。

保育園は、安全管理上、危険な場所があれば危険のないようにし、環境を生かして、子どもたちがやりたい思いを実現し、豊かに遊べるような工夫をしています。子どもたちの姿から学び答えをもらいながら、日々の環境を整えていきたいと考えています。



行事予定

- 0歳児クラス懇談会
豆まき 全園児
- 2歳児クラス懇談会
- 1歳児クラス懇談会
- 身体測定・避難訓練 全園児

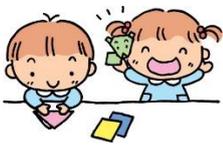


調理室より

12月中旬、ひよこ組（0歳児クラス）の子どもたちとブロッコリーの収穫をしました。そのブロッコリーは、調理室で子どもの食べやすい大きさになるように切り分け、立派な芯の部分は花型にしました。ひよこ組のクラスへ行き「ブロッコリーさん、お風呂に入ろうね」「気持ち良さそうだね」「もう、いいかい」などと言いながら、子どもたちの目の前で茹で、一人ひとりに配りました。ブロッコリーの様子を真剣な眼差しで見守る子どもたちの姿が印象的でした。

1月に入り、再度ブロッコリーを収穫し、前月と同様、クラスに行き茹でました。「美味しいブロッコリーを食べようね」と声をかけると、前回のことを覚えていた子どもたちは、待ち遠しそうな姿で見えています。茹で上がると「食べたい」と言わんばかりに皿を差し出してくれ、嬉しそうに食べる姿が見られました。調理室では、子どもたちが「食べてみたいな」という意欲を引き出すことができるように、食育で関わる時間を大切にしています。これからも毎日の給食を通して子どもたちの成長をサポートできるよう、美味しい給食を作りたいと思います。





～室内遊びの様子～

こぐま組（3歳児）

大人が保育士役になり子どもたちがそれぞれ人形を抱っこして「おはようございます。元気です」と保育園ごっこが始まります。「今日は足を怪我してしまって血が出ています」「今日は遅いお迎えになります」「今日は早めに迎えにきます」と大人が言うように真似しています。また、かまぼこ板を携帯電話に見立てた母さん役の子から「もしもし今日はお熱が出てしまったので保育園はお休みします。明日は保育園行けます。」と保育士とやり取りをしています。その様子を見ていた子が「先生役をする」と保育士役を始めます。

「今日も元気ですね」「はいお茶ですよ」「僕はごはん作る先生」と成り、怪我をしてしまった子がいれば「私、看護師さんをする」とお母さん役や保育士の他にも他職種役に分かれて保育園ごっこが続きました。自分が経験したことやイメージしたことを色々なものを使って見立て、役になりきって友達と遊び楽しんでいきます。



ぞう組（4歳児）

新年お祝い会で伝承遊びに触れ、その中の一つ南京玉すだれに興味を持ちました。去年は保育士と一緒に南京玉すだれを持って少し遊んでみたのですが、今年は子どもたちが一人で挑戦できるように使い方を子どもたちと約束して遊んでいます。保育士は玉すだれの上下や持ち方を教えた後には子どもたちの遊ぶ様子を見ていました。最初は伸びて戻らなくなり苦戦していたのですが、床に置いて地道に戻そうとしたり、一人で大きく伸ばせないときには友達に「そっちもって」と声をかけて片方ずつ持ち一緒に伸ばそうとしたりしていました。どうやったら一人で伸ばせるか考え試行錯誤した結果、床に置いて足を使って広げる技を身につけていました。友達とお互いに教え合って自分なりのやり方を見つけると「できるようになったから一緒に鏡餅やろう」「いいよ」と玉すだれの演目に挑戦しています。遊びを通して友達とお互いの姿を励ましあったり認め合ったりする様子が見られます。



らいおん組（5歳児）

新年を迎えて年賀状ごっこが始まると、女の子たちがポスト作りを始めました。一人の子が、「私ポストのマーク知っているから、私が書くね」と言うと、もう一人の子が、「私だって知っているよ。だって私の家、ポストの近くだもん」とポストの話で盛り上がっています。子どもたちはポストのマークを自分で書きたいようです。その様子を見守っていると「でも、どうしよう。ポストのマークって白だけど、マジックに白ないよ」と言うと「白い紙に描いて切ったらいいんじゃない」と案をだし、どこに貼るか相談し合いながら作っていました。また、男の子たちは女の子たちが手紙のやり取りをしているのを見て、年賀状を書き始めますが「ぼく、書きたいけど、字かけない」と言うので、保育士が「字は書かなくても大丈夫です。絵でもいいですし、書きたいことがあったら先生が書いてあげます」と言うと表情が明るくなり、絵を描き始めました。友達と意見を出し合うことで、解決策を見出し、共通の思いで遊びを継続できるようになった姿に成長を感じました。また、自信のないことに対し、助けを求められることは小学校に行った際、とても大切になってきます。「失敗しても大丈夫」「困った時に何に困っているのかを伝えられることが、大切な事だよ」と子どもたちに伝えています。

